

支部だより

豊橋

学術研修会

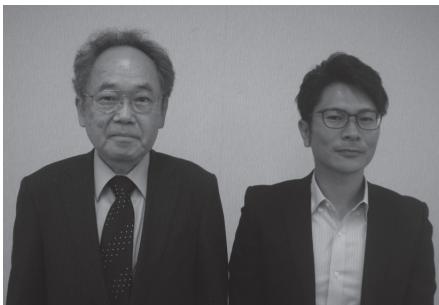


夏目 隆義

9月29日(日)、天候が心配されるも快晴となった消費税増税前最後の週末、豊橋市民センターにおいて、総勢23人(他支部会員3名を含む)出席のもと支部学術研修会が開催された。

初めに陶山 輝雄会員が「自身が経験した右大腿四頭筋部分断裂についての報告」、望月 昇一会員は「手部への関節包内運動による、肩関節可動域制限の変化についての報告」と題し会員発表を行った。

陶山会員は自身の経験をもとにテーピング固定の有用性をしめされ。望月会員は深部感覚受容器へのアプローチにより神経機構からの関節の改善と今後の可能性をしめされた。

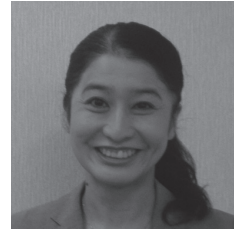


陶山 輝雄会員と望月 昇一会員

その後、豊橋創造大学の瀧崎 優佳准教授の「接骨院に必要なマナーとコミュニケーション」と題し講義をしていただいた。

私達から一番かけ離れた職業の方の講義は興

味を引くことが多く、准教授の肩書とはかけ離れた話術にて、講義の間は始終笑い声が後を絶たなかった。



瀧崎 優佳准教授

二人一組になりコミュニケーションの基本を教わり、普段私達が無意識にしている動作がいけない態度を考えるきっかけを享受していただくことで、マナーとは何かを教えてもらうのではなく、自分で考えることも気が付けていただいた。また、笑い顔を作る練習で「1分間口角を上げるトレーニング」などの実技も行われたなか、その後に口を開けるのがつらいほどの実技でしたが、その他各テーマ終了を告げるタイマーの合図がミッキマウスマーチであったことで、この音も通常の機械的なアラームですと気が立ってしまうかもしれないのが、コミユカルな音楽であると気分が悪くならないものだと感じた。

90分の講義は休憩もなくアツという間に終了、もう少し講義をして頂きたいと思うほどであり、明日からの施術にマナーとコミュニケーションを取り入れて行ける充実した研修会であった。

ウェルネス2019



中島 正勝

ラグビー日本代表が決勝トーナメントに進出を決定した熱気が冷めやまない翌日の10月14日(月)、豊橋市総合体育館にて「ウェルネス2019」が開催されました。

私たちAJAST(愛知県柔道整復師会・アスリートサポートチーム)はメンバー自ら治療の中から考案した運動法を来場者楽しく伝授しました。今回は「体幹wo体感! 体幹de体換!!」

をテーマに掲げ、永井(祐)会員は風船を膨らまし腹横筋を強化、中島会員は青竹を使い足指を拡げることで体幹の安定に効果があることを実証し、最後に望月会員がサンドバッグにパンチを打ち込むことで軸がブレなくなることを確認し体幹筋の必要性を伝えました。併せて接骨院体験などでは、体の不調を訴える方に柔整手技の一部を体験していただくと同時に支部会員の施術所リストの配布などPR活動も行いました。昨年を上回る360名ほどの利用者があり大盛況で終わることができましたが、一度に多くの利用者が殺到したために当初予定していたBefore Afterの検証を簡略、伝えたいことが十分でなかったなどの課題が残り次回以降の改善点となりました。

現在、病気療養中の源田会員も参加し受け付

けなどのサポートをしていただきました。また、AJASTのマスコットキャラクター「やわらッコ」も子供たちと触れ合い、待ち時間の方には癒しのおもてなしなど大活躍でした。参加メンバーは親子ほどの年齢の差があるにも関わらず和気藹々とお互いを思いやり、まさにラグビーの精神(One for all All for one)からメンバー相互が同じ成分の汗を流しました。

また当日、ウエルネスの総合受付では私たち愛知県柔道整復師会豊橋支部の発案と用意した募金箱で、〈13日に発生した台風19号で被害に遭われた方への募金活動〉を主催者・豊橋市体育協会に呼びかけ実現に至りました。ご来場の市民からも多くの暖かい支援が寄せられ協会会長・関係者からも感謝の言葉をいただきました。

第3種郵便物認可



東 愛 知

来場者ら心地良い汗

子どもから高齢者まで 橋市体育協会主催が14日幅広い人たちが楽しめる「ウエルネス2019」(豊橋)が訪れ、ソフトボール、ミニテニス、エアロビクスなど約30種類のスポーツを体験した。スポーツ振興にと2000年から毎年行っている、レクリエーションを重視したことから、本格的なものであり、来場者たちが心地良い汗を流した。

またスポーツを行うには体幹が大切と、愛知県柔道整復師会も協力。風船を「一気にふくらませる」ことで腹横筋が鍛えられ、体幹が長くなると紹介。実際に体験してもらった。

また東京五輪開催にちなみ「なだこ」もあり、やり投げや砲丸投げに使う道具も紹介した。(竹下貴信)

風船をふくらませて腹横筋を鍛える来場者(豊橋市総合体育館)

10月15日(火) 東愛知新聞に掲載

中村

第91回中村支部学術研修会



山北 陽一

10月27日(日)に清須市の「にしびさわやかプラザ」において、第91回中村支部学術研修会が開催され、当日は約30名の当支部会員と他支部学術部の方が参加し行われました。

研修会に先立ち休日で行行事のお忙しい中、

神田けんじ内閣府大臣政務官、当会顧問の寺西むつみ県会議員がお越しになりご挨拶をいただきました。

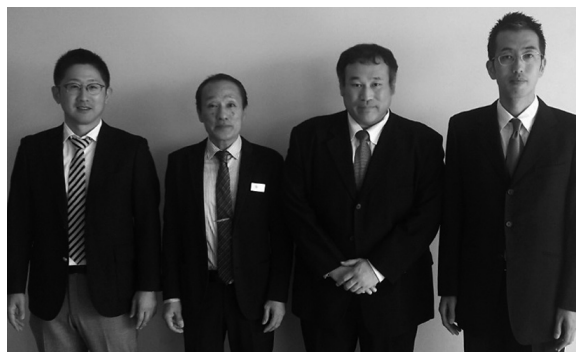
研修会の今回のテーマは2題で「少しだけかじってみよう栄養療法のこと」、「手指狭窄性腱鞘炎(ばね指)について」でした。

1題目では「栄養療法」についてふれ、私たちが運動療法を指導する際に、特に高齢者において「一生懸命に運動しているのになかなか効果が現れない」という経験をすることもあるかと思えます。そこで柔整的な視線だけではないアプローチも必要と考え、患者さんの食事の状態

を聞いてみると、予想以上に良くないことがわかりました。高齢者でも筋肉が増強することは周知のことですが、そのためには「運動」だけでなく「栄養」が必須であり、患者さんの食生活についてもアドバイスをするきっかけとなる内容でした。

2題目の狭窄性腱鞘炎(以後ばね指)については、解剖、病態、治療法にわけての報告となり、私たちがよく解剖書などで見ると手指の屈筋腱鞘には実は非常に多くのバリエーションがあることや、ばね指の病態についての歴史的な変遷、またいくつかの固定法に加え、手技療法や施術計画の考え方など詳細な報告となりました。ばね指は病態についてもいまだ議論が多く、非常に奥が深いものであることを知る機会となりました。

来年度も日々の業務に少しでも役立つ学術研修会を開催したいと考えています。より多くの会員の方々のご参加をお待ちしています。



第 91 回 中 村 支 部 学 術 研 修 会

内容: 1) 少しだけかじってみよう栄養療法のこと
2) 手指狭窄性腱鞘炎(ばね指)について



中村支部学術部
令和元年10月27日
於: にしびさわやカプラザ

熱田

支部学術研修会 定時総会・保険研修会



支部広報担当
山守 貴英

6月23日(日)に令和最初の熱田支部学術研修会・定時総会・保険研修会が挙行された。例年は愛整会館で開催されていたが、駐車場の使用ができなくなったことを契機に別の開催場所を学術部内で検討した。その結果、費用及び立地から名古屋市南陽交流プラザ(港区東茶屋)を開催場所とした。

近年の熱田支部学術研修会の特徴としては、毎月一回の学術会議に整形外科などの勤務柔道整復師にも参加・協力いただき、それぞれ興味

のあるテーマや臨床現場での課題・工夫などを持ち寄り、これらを基に議論を重ねて演題を4～5題に絞り、発表者が中心となり学術部員全員で一年間掛けて煮詰め発表するという形式であることと、発表内容によっては製作物の展示や作製の実演も行うことである。他支部会員や若い勤務柔道整復師の参加もあり、ご好評をいただいている。今回は、自作PTB型短下肢装具を用いた第5中足骨骨折2症例の報告、踵骨骨折の症例報告と自作骨模型による骨折部の再現とその検討、肩関節脱臼に対する自作外旋位固定装具の紹介とエコー観察を用いた固定肢位の検討、各種機能的固定法紹介の計4演題が発表された。



その後の定時総会では小林熱田支部長司会の下、新入会員紹介、役員会活動報告、各部の活動報告、会計報告を行った。

併せて保険研修会も開催され、河合本会経理部長より無傷請求の扱いについて、返戻申請書に貼付された付箋の扱いについて、小児肘関節脱臼(いわゆる肘内障)の扱いについて、医科との重複による返戻の扱いについての詳細な解説があった。またフロアの会員からも、日頃からの疑問点などについて質問があり闊達な意見交換がなされた。

最後に、この施設は広大な駐車場を有しているが、当日は地元のグラウンドゴルフ大会も開催されており我々の駐車場が不足する事態となった。しかしながら、ある勤務柔道整復師の機転と取り計らいにより交通トラブルなく無事閉会出来た。これはほんの一例で、今回も多くの会員のお力添えと勤務柔道整復師の協力があったことを付記し、この場をお借りして心から謝意を表したい。

大曾根

第36回大曾根支部学術研修会 保険研修会、情報交換会



支部広報担当
横井 達典

10月6日(日)午後1時30分から午後4時10分まで、愛整会館講堂にて38名の会員が参加して、第36回大曾根支部学術研修会・保険研修会が開催された。その後、午後4時30分から午後6時30分まで、「GRILL DINING & WINE 金山テラス」(名古屋市中区金山)にて39名の参加のもと、情報交換会が行われた。

学術研修会では2題の発表があった。まず、林 道明支部学術部員が「運動療法について」として、運動療法の定義、目的、基本的方法について発表をした。続いて、館 利幸支部学術部員が「足関節捻挫に対する運動療法に関する文献報告」として、Star Excursion Balance Test (以下

SEBT)という立位での下肢動的バランス能力評価法、SEBTと運動療法、SEBTの改善方法について報告をした。

林 道明支部経理担当、春日井柔道部長、小林副会長の業務連絡の後、保険研修会では、森川会長より“制度改革後の業界「平成」から「令和」へ”と題して、最新の業界の動静について詳細な報告があった。

情報交換会では、井上 哲三支部事業担当の司会にて、溝口 英一会員の医療功労賞受賞報告、平岩 一郎会員の米田柔整専門学校同窓会会長就任報告、小川 真明会員・中村 宜之会員・山田敏貴会員の3名の新入会員の紹介があった。中村 譲二会員の乾杯発声後、会食がはじまった。最後に長谷川 一支部柔道部総監督の中締めにて、情報交換会が盛会裏に終了した。



岡崎

第40回記念豊田マラソン大会



鈴木 清孝

11月17日(日)未だラグビーワールドカップ2019の余韻が残るこの豊田スタジアムにて、第40回記念豊田マラソン大会が開催されました。

今回のエントリーされている選手は、県内外合わせて11,367名が2キロ、4キロ、10キロに

わかれ豊田スタジアム周辺市街地を疾走しました。今大会は、スペシャルゲストとして、2000年シドニー五輪金メダリストの高橋 尚子さん、2019ラグビー日本代表の姫野 和樹さんが参加し大会を盛大に盛り上げました。

われわれ愛知県柔道整復師会岡崎支部は、第31回より無償ボランティアとして大会に協力し、選手のコンディショニングおよびケアを担当してきました。今年もボランティア参加となり、6名の本会員が午前7時30分から午後12時20分まで愛知県柔道整復師会(接骨院ケアセンター)と書かれたブースで業務にあたり、選手にリコンディショニング、ケア、ストレッチング、テーピングを施行しました。当日は160名のランナーがブースに訪れました。今までの暖かさから急激に気温が低下したため念入りにケアを受けられ、「行ってきます!」と元気にスタート地点に飛び出して行きました。

選手に多く見られたのは、下腿部の負傷で走行中に足が攣る、アキレス腱付近の疼痛、軽度の肉離れが多く見受けられました。このような選手のみなさんには、ストレッチ、日頃のケアの重要性を説明し、感謝の言葉を頂き業務を終了しました。参加頂いた会員の先生方には、本当にご苦労様でした。

また大会前日には、記念式典が豊田市コンサートホールで行われ、当支部は大会委員会様より感謝状を頂きました。その後、高橋 尚子さん、姫野 和樹さんのトークショウで会場が笑いの渦に包まれました。

豊田マラソン大会ボランティア参加者

鈴木 清孝・安井 基・関塚 義也・田中 孝佳・宇野 貴雅・加藤 元樹



笠寺

支部研修会・情報交換会



平岩 丈彦

新しい元号令和も半年が経ち、そろそろ冬の足音も聞こえてきそうな11月10日(日)、折しも天皇陛下御即位の祝賀パレードの日、毎年恒例の笠寺支部秋の研修会・情報交換会が名古屋駅前「旬蔵」にて行われた。

参加者は30名、今回は療養費適正調査委員会の山口 雅彦委員長にお越しいただき療養費の取り扱いについて日頃から疑問に思う事などを事前に会員より質問を募り、それに対し回答をご教示いただくという形式を取った。

健康保険の取扱いにおいて「柔道整復師をとりまく環境は厳しくなっている」と言われるようになって久しいが、なかなか改善されるどころか益々厳しい状況に感じられる昨今、質問においてもそのような状況を反映してか申請書の文章解釈の問題や、各種料金の算定基準の解釈など、保険者もその問題を明確に把握してきており、我々も改めて確認して向き合わなければならないと感じた。

厳しいのは事実だが嘆いてばかりはいられない。適正な療養費の支給を我々が望むのなら、レセコン等に任せきりにしないで、その仕組み成り立ちなどをもう一度見直して、いつでも我々の請求は正当であると主張できるよう、日頃から取り組む心掛けが必要だと思った。

研修会に引続き情報交換会が行われた。山口委員長にもご臨席いただき、会員個々に研修会

よりさらに踏み込んだお話し等をうかがう事ができ、今回の会合を有意義に終えることとなった。



刈谷

支部研修会



支部広報担当

岡田 忠士

10月16日(水)午後1時30分から3時まで、碧南市南部市民プラザにて、刈谷支部研修会が32名の会員が参加し行われた。

1.申請書作成・提出時の注意点について

申請書を会に提出する際、各種保険取扱い表、総括表及び伝送データに記載されている枚数と実際の枚数が違う事が度々起こっている。足りない「封筒に残っていないか」「足元に落ちていないか」など必死に探す事になり、探した後で会員へ送り忘れていないか連絡する事になるため、作業が滞ってしまう。申請書を送る際は、封筒に入れる前に総括表と枚数が合っているかをよく確かめた上、輪ゴムでとめるなどして送るようにすること。

2.返戻書類の対応（不支給通知等）について

- ・愛整ホームページに返戻の注意事項等が書いてあるので確認しておくこと。(ログインIDとパスワードは、愛整ニュースに記載あり)

- ・最近申請書が返戻にならずに直接「不支給」ということで保険者より戻ってくるという事例が発生している。患者聴取にて正当な回答が無いとか、医科との併診により不支給となっているようなので、必ず患者さんとコミュニケー

ションをしっかりと行って安易に調査回答しないようにすると、調査書類が届いた際には、当院までお知らせいただくようお願いするなどしてほしい。また不服がある場合は再審査請求を行うといった手立てもあるので愛整会保険部に連絡し相談をすること。また、行き過ぎた保険者等への照会などがあった場合は、愛整会に連絡をしていただければ、会から厚生労働省にお願いして指導していただくようにする。

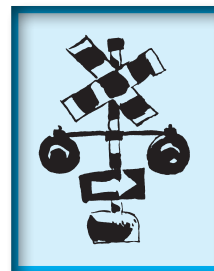
なお、会でまとめて厚生労働省に連絡するので個人で直接連絡しないこと。申請方法等は、愛整ホームページに方法、様式フォームが載っているので確認を。

厚生労働省に行き過ぎた返戻・不支給への相談窓口があるので、できるだけ多くの報告が欲しい。不支給内容に疑義がある場合は、愛整ホームページに不適切な保険者等への紹介の連絡票があるのでプリントして記入し、保険者から送られてきた不支給通知とともに愛知県柔道整復師会へ送ること。

3.料金改定について

消費税増税に対する料金改定があった、手書きの会員は間違えないようにすること。その後、会員から保険の取り扱いなどで、わからない事や困っている事がないかを聞き回答した。

最後に支部各部会からの報告をして閉会となった。



一宮

第35回一宮市民健康まつり



東 雄二

9月1日(日)一宮市主催により第35回一宮市民健康まつりが、一宮スポーツ文化センターにて午前10時から午後3時まで開催されました。一宮市からの依頼により、毎年この健康まつりに一宮市接骨師会も公益活動の一環として参加しています。

新時代令和となった今年は、一宮支部の第4担当班(浅井・葉栗地区)の会員が主体となり支部会員33名と協力業者2名の計35名で参加しました。

この健康まつりは「健康づくりは幸せづくり みんなでつくる健幸のまち いちのみや」をテーマに、日頃市民の健康づくりに尽力されている一宮市医師会・一宮市民病院・一宮市歯科医師会・一宮歯科技工士会・愛知県歯科衛生士会尾張西部支部・一宮市薬剤師会・愛知県診療放射線技師会・一宮市接骨師会・愛知県鍼灸マッサージ師会一宮支部・一宮地域腎友会・名古屋市立大学エコチル調査愛知ユニットセンター・愛知県一宮保健所・一宮市健康づくりサポーター協議会・一宮市健康づくり食生活改善協議会・市健康づくり課・修文大学の方々が参加しブースを作っています。

それぞれのブースには、展示コーナー・体験コーナー・検査コーナー・相談コーナーなど市民の皆さんが気軽に参加出来る様、工夫を凝らした沢山のコーナーが作られていました。

我々、一宮市接骨師会のブースでは、①身

体能力測定コーナー、②物理療法コーナー、③やわら体操コーナー、④転倒予防と機能維持運動コーナーの4つのコーナーを設け、それぞれ担当の会員が市民の皆様を迎え入れ対応にあたり、それぞれのコーナーには、①305名、②122名、③87名、④87名と、子供から高齢者まで幅広い年齢の多くの市民の皆様の来場がありました。

私は、①の身体測定コーナーを担当しましたが、身体測定コーナーでは、握力・開眼片足立ち・ファンクショナルリーチ・タイムアップ&ゴーの測定を行い、測定結果を分析し、測定評価報告書を作成し印刷してお渡ししました。このイベントは毎年人気があり、来場される人も多く、以前の結果を覚えている人などもいて、以前より結果が悪かった人が多数見受けられた。結果が以前より悪かった人達は、「特にこれといった運動はしていない、体のメンテナンスも何もしていない」という人達がほとんどでありました。この言葉は自分にも当てはまり、運動など体に対してのケアの大切さを実感し、健康を管理する側の立場として反省するばかりでありました。

来場客の中には、接骨院とはどういう所なのかまだ知らない人達も多く、このイベントに参加した事によって我々柔道整復師の認知度も少しは上がったのではないかと期待しております。



2019江南市民健康フェスティバル



石川 真嗣

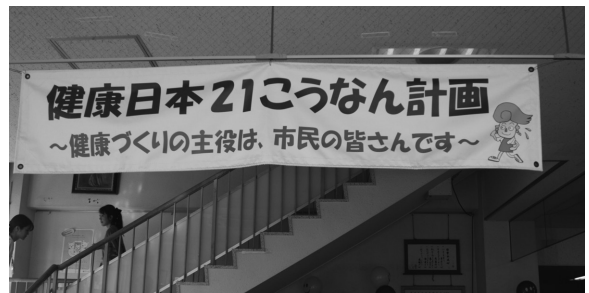
《令和》最初となる、2019江南市民健康フェスティバルは、各地に多大な被害を及ぼした台風19号の接近に伴い開催が危ぶまれる中、10月13日(日)江南市保健センターにて江南市制65周年の記念事業として、幸いにも予定通りに開催された。

江南市は【第2次健康日本21 こうなん計画】を策定し、「すべての市民が協力し、健康で思いやりと幸せあふれるまち」を目指し、その健康づくり推進の一端として健康フェスティバルを位置付けている。この公益事業に江南市保健センターから愛知県柔道整復師会一宮支部に活動支援の依頼があった。これに参加することは、江南市行政に柔道整復師が市民の健康増進のために活躍できることを証明し、信頼関係を築く一助になるのではと願う。また市が開催するイベントへの参加が、市民への接骨院とは、どのような所で、どんなかかり方をすればよいのか、周知を図ることにつながればと思う。

柔道整復師のコーナーでは『肩・腰・膝の運動指導と相談』をテーマに、一宮支部会員10名が午前10時から午後3時30分まで、個別指導で来場者1人に10分程度、特に気になる箇所の運動指導をした。運動指導の内容は簡単なマニュアルを作成しそれを基本に行い難解な相談に対しては、各会員が日頃臨床の場で実践している知識や技術を駆使し、来場者の十人十色の相談に応じた。当コーナーの来場者は140名にのぼり、会員の懇切・丁寧な説明は概ね好評であり満足していただけた。また普段では患者さまから聞けないような接骨院に対しての本音を語られる来場者もみられた。江南市民健康フェスティバルに出席することで様々の考えや立場、理由を持つ方々のお話を聞き、今後の自身の仕事の携わり方や患者さまとの関係づくりを改めて考えさせられる有意義な一日となった。

最後に、今回初めて健康フェスティバルの担当になり、どのように準備をしていこうか苦慮

していた所を御助力いただいた一宮支部役員と健康フェスティバルに出席していただいた一宮支部会員に心から感謝し来年につなげたいと思う。



一宮市バレーボール大会救護



岩田 司

今年度の一宮市バレーボール大会の救護班は、第4担当班(浅井・葉栗)が4月7日、5月12日、6月2日、8月25日、10月14日、10月20日の6大会を10名の会員で分担し救護にあたりました。

一宮市の会員は以前より一宮市バレーボール協会と縁があり、6人制、9人制の春秋バレーボール大会、ママさんバレーボール大会の大会開催時に2名の会員が、朝9時より大会終了まで待

機し緊急時に備えています。

本日、10月20日今年度最後の大会救護にあたり、中野 一哉支部長の激励を受け、加藤 雄三会員と私、岩田 司が担当しました。

前日までの大雨が嘘のように晴れわたり最高気温が27度と汗ばむ様な陽気の中、一宮市総合体育館「いちい信金アリーナA・B」で秋季協会バレーボール大会(6人制)が開催されました。

大会当日の朝、寝違えをした選手に手技療法を施したのを初め、試合前のウォーミングアップで下腿部、大腿部の肉離れをした選手にストレッチ等の手技療法やテーピング固定を施しました。

大会が進行するとともに各試合にも熱が入りハッスルプレーによる腰部、股関節、膝関節、肩関節の負傷者が次々と訪れ、各々の負傷に対応した応急処置を行いました。

また、今大会の決勝戦では参加選手がアキレス腱を断裂してしまう普段の業務では中々お目にかからない大ケガをし、応急処置後に救急車を手配し医療施設への搬送というアクシデントにみまわれました。そして無事に選手を見送り、安堵の表情を浮かべた関係者とともにホッと胸をなでおろした後、午後5時に解散しました(今大会は25人に対して施術を行いました)。

来年度も会員同士協力し選手たちにケガがなく大会が進行することをお祈りしまして救護活動を担当したいと思います。



半田

東海市ハーフマラソン2019 救護ケアに参加して



鬼頭 資治

12月8日(日)東海市市制50周年を記念して初のハーフマラソン大会が開催され、太田川駅西大屋根広場にて午前8時30分に開会式が始まり、ハーフマラソン・10キロ・2キロの部に分かれて、約8,000人ものランナーが参加した。

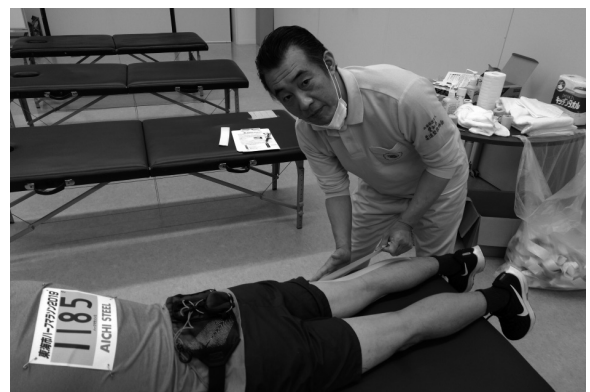
松田半田支部長はじめ、12名の半田支部会員で東海市芸術劇場1階ワークショップ室にて7時45分からケア・テーピングの活動を開始した。午前9時15分には最初の部がスタートするので時間との闘いであった。

東海市での活動は初めてで、柔道整復師らしい活動として、今まで他の地区のマラソン大会に参加した時はゴール後のケアの手技が中心であったが、今回からはスタート前の選手のサポートも担当することにし、そのため通常よりもテーピング処置が多くなった。

施術部位は足関節、膝、下腿部、ハムストリングが多く、時間が経過するとともに走り終えた選手が増えてきてストレッチが中心の施術に変わってきて大盛況であった。

ポータブルベッド7台と椅子で対応し、女性選手に対しては特に強い希望があったわけではないが、事前にパーテーションで区切った専用スペースを設けることによって安心感をもって利用してもらえたようである。

午後12時30分までで施術の受付を締め切っ



たが、終わってみれば187人も選手が利用してくださり、中にはスタート前にテーピング処置した女性シニア選手が「足首が痛くて完走を



諦めていたんだけど、テーピングしてもらったら最後まで走り切ることができました。ありがとうございました」とゴールした後に担当した会員にわざわざ挨拶に来てくれ、とてもうれしく感じ、ある意味達成感に高揚した。

初めての東海市のマラソン大会、初めてのハーフマラソンのケア、初めてのテーピング処置中心のケア、何事も初めて尽くしであったが、大変有意義な時間を過ごすことができ、今後の施術にこの経験を活かすことができそうである。

ひがしうらマラソン大会 救護ケアレポート



田畑 裕也

12月15日(日)あいち健康の森公園にて、東は東京、西は兵庫からと町内外から2,548名の選手が集まり、この中に押谷 昌之会員(大曾根)が参加していた。最高齢男性85歳、女性79歳のアクティブシニアの参加が光る「第45回ひがしうらマラソン大会」が開催され、半田支部会員10名、勤務柔整師4名で朝7時半より、今年で3回目の救護ケアに参加した。

今回は初の試みで出走前の選手にパフォーマンス向上や、怪我予防の目的で、ストレッチやテーピングを施行し選手がレースに集中できる様に身体の不安を取り除いた。

例年より少し暖かいが冬空の下でのレース前で固まった筋肉や表情もしっかりと緩めて、我々のブースを訪れた選手をみんなで元気に送り出し、ゴールしてから訪れた選手にも、マッサージではなく、張った筋肉を緩めるストレッチを施すことに専念した。

中には、出走前にテープをわけて欲しいと訪れた60代の男性選手もいたが、折角だから我々がテーピングすることを促し、状態を説明しながらテーピング処置を施してから送り出したところ、ゴール後に「まったく痛くなく走れた！ぜひさっきの先生にお礼がしたい」とわざわざ来ていただいて返って恐縮至極であった。改めて我々が柔道整復師としてスポーツ現場や公共の行事に参加する事の意義を深く感じ、感激した。

来年はストレッチやテーピングの必要性についてもっとしっかりと事前に告知し、より沢山の方に体験してもらおうという課題ができ、まだまだ3回目、伸び代があると感じた。



共済会だより

新年挨拶



副会長

内田 光昭

謹んで新年のお慶びを申し上げ、あわせて愛知県接骨師会共済会会員皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

国民生活の基層をなす文化の元号が「平成」から「令和」となり、改元という大きな出来事は、天皇の代替わりの他に、慶事や凶事等で、人心一新の手段ともした。改元後の最初の正月は、人々が希望を持てる時代となれと誰もが望む。

昨年は、台風19号が日本列島に大きな傷痕を残して、7県71河川の140ヶ所の堤防決壊で多くの死者を出した。地球温暖化のせい、今や「天災は忘れぬうちにやって来る」時代を迎え、私達は絶えず災害発生を警戒しなければならない。度重なる台風による水害で被災者の生活再

建の見通しが立たない状況が続いているが、大半は浸水で自宅が損壊した人々だ。より深く関与した強力な生活支援体制の構築が急務だ。

南海トラフ地震では、地震の起き方によりますが、高齢者や津波の危険性が高い地域の住民らは、一週間程度の避難を指示されます。自助や公助で無く、共助。お互いに助け合わなくてはいけない。

新入会員の減少による会員数の低下、高齢化等の荒波による保障給付の維持等の課題の中で、どう生きるのか、どの様に生きて行くのか。自由を尊重しつつ共に生きる。要するに相互尊重です。再分配機能を強化し災害対策積立金・財産強化積立金の固定資産の倍増による活性化を図る。

私達一人ひとは、小さな存在ですが、しかし大きな歴史を作ってゆく、小さな歯車の一つでもある。共に生きるとは良い方向へ大きな歯車を動かそうと力を合わせる事。目的に向かって進み、生きる喜びを分かち合い責任を取る。

会員の相互扶助の活動に何卒宜しくご協力の程、お願い申し上げます。

介護ステーションだより

ケアマネジャーの仕事の魅力について



愛柔整介護ステーション管理責任者
常勤ケアマネジャー

岡 正雄

新聞記事等からの情報となります。今年度のケアマネ受験者は、大幅に減少した昨年度とほぼ横ばいであることが分かりました。受験要件の厳格化でケアマネの質や専門性の向上を図るため、昨年より法定資格者や相談援助等業務従事者に限定されていることで、受験者数が減ったとも考えられている。ケアマネジャー

という仕事の魅力が他の介護職に比べて相対的に低くなってきているのではないかと考えられます。ケアマネジャーの待遇面ではこれまで処遇改善加算の対象になってこなかったことや、昨年10月に創設された特定処遇改善加算でも居宅介護支援が対象から外れていることで、勤続年数に応じた賃金の上昇が期待できにくい状況にあります。

一方、介護福祉士では人材不足から介護職員の処遇改善が進みさらに、今回の特定処遇改善加算の創設で、介護福祉士で10年働けばケアマネより高い給料がもらえると考えられるようになったことで介護福祉士の先行き期待感が高まっています。結果的に介護職と比べて相対的にケアマネジャーの処遇が下がっている事になるとみられています。また、地域包括ケアシステムの構築が推し進められる中で、いろいろ

な問題を抱えた相談や医療と介護の連携など、ケアマネジャーに求められる役割や責任が、以前よりはるかに重くなってきている実情があります。そうしたことで介護支援専門員が参加する団体では次回の改定でケアマネの処遇改善の必要性を訴えているそうです。ケアマネジャー受験者数が減少したことで、試験にかかる手数料を引き上げる自治体も出てきています。そのことでさらに受験者が減るといった事

態が生じているとしたら問題は重大ではないでしょうか。

ケアマネジャーは介護保険制度の中心となる存在であり、要介護高齢者がさらに増えていく中で、ケアマネジャーが足らなくなる事はあってはならず、今働いているケアマネジャーやこれからケアマネジャーになろうとする人たちに悪影響を与えたり、職種選びから敬遠される事があってはならないと思います。

協同組合



副理事長
手塚 幸一

日頃は協同組合をご利用いただきましてありがとうございます。

今期は組合事務所が2階から1階へと移動して組合員の皆様にはご迷惑をおかけしました。組合事務員が6月末に退職し、補充ができず、組合役員が事務作業を行うようになり手違いがあり、皆様にご迷惑をおかけしたことと思います。誠に申し訳ございませんでした。今後は社団事務方の協力を得て、円滑な事務作業ができるように努めてまいりますので宜しくお願い致します。

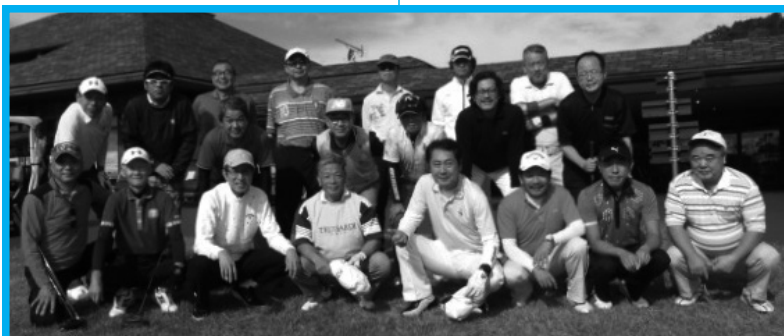
今期の事業としては『生命保険組合払いキャンペーン』を令和元年8月から令和2年3月まで行っております。新規契約者の方には金額に応じて図書券をプレゼントしておりますので、是

非この機会に組合払いにご協力ください。

福利厚生事業としては7月28日(日)星ヶ丘ボウルにて第20回ふれあいボウリング大会を開催し、昨年と同数の37名の参加者があり団体優勝は刈谷、準優勝は半田、3位は一宮で、個人の部優勝は毛受 貴弘組合員(刈谷)が2年連続優勝しました。

10月20日(日)には第20回親善ゴルフコンペが三重県津カントリークラブにて開催され、ゴルフを愛好する20名の組合員の参加者が集まり晴天の中、難コースに苦しみながら同伴者と和気あいあいとプレーを楽しみました。優勝：伊藤 勇造組合員(鶴舞)、準優勝：浅田 正美組合員(半田)、3位：安原 成浩組合員(刈谷)でした。参加した組合員は明日への鋭気を蓄えて帰宅の途につきました。

教育情報事業ではこの1月にエコー勉強会を企画し募集中です。導入を検討されている方、使い方の自信のない方、この機会に受講して下さい。故長谷川理事長がよく言われていました「協同組合は明るく元気よく」をモットーに組合活動を展開していく所存ですので宜しくお願い致します。



編集後記

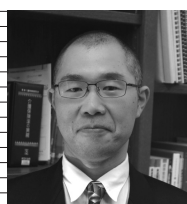


無事、第77刊を発刊することができましたのは、会員のご支援・ご協力の賜物と感謝いたします。

昨年も、災害の多い年でしたが、今年こそは災害の少ない年であってほしいと思います。

災害に備え何ができるか、また何ができないかを日頃から家族で話し合っておくことも大切かと思います。社会インフラが寸断され電気・水道・ガス・携帯電話等が使えないとなった時どうしますか。避難所へ行けば何とかなるかもしれませんが、そこまでたどり着けるのでしょうか。自宅で何とかしなければならないときどうされますか。いろいろ話し合うことは多いと思います。ぜひ話し合ってください。

古賀 一



10月22日(火)天皇陛下の御即位を国内外に宣明する「即位礼正殿の儀」が、183カ国と8地域から元首をはじめ要人が出席し行われました。直前まで雨が降る天気でしたが、開始時間の午後1時には皇居上空の雲が晴れ、日光が差し込み大きな虹がかかる神秘的な光景が報道されました。天皇陛下は黄櫨染御袍を御召しになられて高御座に、皇后陛下は十二単を御召しになられて御帳台に御立ちになられる御姿に感動しました。

11月14日(木)・15日(金)には、天皇陛下が御即位に伴い最初に行う新嘗祭であり、最も重要な祭祀とされる大嘗祭が、伝統を守り悠紀殿と主基殿からなる大嘗宮が建築されて行われました。一連の即位の儀式や祭祀に日本の長い歴史に培われた伝統を感じました。

伝統といえば、日本柔道整復師会が柔道整復術公認100年周年の記念事業として、「匠の技 伝承プロジェクト」を立ち上げ、卓越した技能を持つ先生が、骨折・脱臼治療の確かな知識と技術の継承をすることで、今後の柔道整復の礎を築こうとしています。近い将来、日本国内のみならず世界からも「日本には柔道整復がある」と言っていただけることを願います。

岡田 忠士



令和に年号が変わり、初めての新年を迎えた。

会員みなさまのおかげをもちまして、ここに第77刊を発刊できましたことは大変喜ばしいことであります。

令和元年。平成から令和に年号が変わり、元年を表す漢字も「令」と発表され、色々「令和初」と言うことばが謳われるようになった。

昨年はラグビーワールドカップで、日本が大騒ぎし、当方も含め大変な盛り上がりを見せ、今年はずいぶん2020オリンピックが開催され、またメディアも忙しくなると思う。

我々広報部も、メディアに負けぬよう情報の発信に努め、愛整会と共に「ワンチーム」で頑張っていきたい。

もちろん愛整会会員みなさまも我々と同じ、言うなればチーム。みなさまなくしては成り立ちません。今年もご協力お願い申し上げます。

室谷 勉

第78刊の原稿募集

1. 内 容 論説、時評、文化、学術、短歌、俳句、ふれあい、支部だより等
また、記事に関連する写真がありましたら添付してください。
支部名・お名前を必ずお書きください。
ご本人の顔写真は必ず添付してください。
2. 締切日 2020年5月20日(水)
3. 送り先 〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目13番22号
公益社団法人 愛知県柔道整復師会 広報部
愛整広報メールアドレス：kouhou@shadan-aisei.jp

投稿についてのお願い

1. 寄稿文の採否、および多少の字句の訂正は広報部におまかせください。
2. 引用文献は、必ず著者名、著書名、巻、頁、発行所を明らかにしてください。
3. 原稿は横書きに統一します。
4. 文章の題名、支部名、氏名は、4行使い、本文は5行目から書き始めてください。
5. 句点「。」読点「、」かっこ「（」は、必ず全角文字を使ってください。
6. 書き始め、段落の始めは1字あけて書いてください。
7. 原稿は読み返して、推敲してください。
8. 医学用語は正しく書いてください。
9. 原稿はできるだけUSBメモリー・CD等で提出してください。
ただし、そのデータをプリントした物を必ず添付してください。
またデータを作成したソフト名をお書きください。
10. 原稿は「件名」に「愛整広報原稿(+氏名・支部・タイトル等)」と明記の上、
上記アドレスへメールしていただいても結構です。
データは原則として、Windows版 Microsoft WORDまたはEXCELで作成してください。
11. 1枚の画像の容量は300KB程度とします。
文書内に貼付けた画像は、元の画像ファイルも添付してください。
ただし、表紙に使用する写真は2MB以上で、できるだけプリントしたもの(2L版以上)を添えて提出してください。
12. 投稿した原稿・写真等は、締切日より1ヵ月程度はご自身でも保管しておいてください。



発行日 令和2年1月31日

発行者 森川 伸治

編集者 古賀 一・岡田 忠士・室谷 勉

印刷所 名古屋市昭和区広見町5-55-1 牧印刷

TEL090-9908-3080・FAX052-852-5750
